

《 2021年 7月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	5月	6月	7月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	28,860.08	28,791.53	27,283.59	-5.2%	-0.6%
	マザーズ指数	1,150.06	1,207.46	1,085.34	-10.1%	-9.3%
外国株式	S&P500	4,204.11	4,297.50	4,395.25	2.3%	17.0%
	MSCIEurope	2,056.97	2,026.34	2,062.24	1.8%	12.1%
新興国株式	上海総合指数	3,615.48	3,591.20	3,397.36	-5.4%	-2.2%
	ムンバイ SENSEX	51,937.44	52,482.71	52,586.84	0.2%	10.1%
海外金利	米政策金利	0.25	0.25	0.25	-	-
	米国債 10年	1.58	1.47	1.23	-	-
国内金利	政策金利	-0.03	-0.05	-0.04	-	-
	10年物国債	0.08	0.05	0.02	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	109.54	111.10	109.70	-1.3%	6.3%
	ユーロ	133.95	131.71	130.21	-1.1%	3.3%
コモディティー	ICE 原油(先物)	66.32	73.47	73.95	0.7%	52.5%
	COMEX 金(先物)	1,905.30	1,771.60	1,817.20	2.6%	-4.1%
不動産	東証 REIT 指数	2,073.55	2,150.73	2,160.33	0.4%	21.1%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,426.53	1,431.95	1,425.63	-0.4%	3.3%

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[7月の金融市場]

7月の日本株式市場は後半にかけてじり安の動きとなりました。米国株が堅調に推移したことを受け月半ばに一時的に反発する場面がありましたが、中国政府の規制強化やコロナ感染の急拡大を嫌気して月末には日経平均で1月以来の安値をつけています。日経平均の月間パフォーマンスは-5.2%となり、グローバル市場での日本株の弱さが目立ちました。TOPIXは-2.2%と軟調でしたが3ヶ月連続で日経平均をアウトパフォームしました。NT倍率は14.8から14.3まで下落して低下基調がさらに鮮明となっています。マザーズ指数は-10.1%と大幅反落となりました。

米国株は、インフレ懸念や金融引き締め観測が後退したことに加え好調な企業決算を背景に概ね堅調に推移しました。デルタ型コロナウイルスの感染拡大懸念から一時NYダウが2日間で1,000ドル以上下落する局面がありましたが、すぐに回復して結局ダウは月間で+1.3%の上昇となりました、ナスダックもほぼ同水準の+1.2%となり、広範囲のセクターで底堅い値動きが続きました。

為替相場では、米国長期金利の低下基調を受け、ドル円で月初めの111円台から月末の109円近辺までじりじりとドル安円高の動きとなりました。ユーロ円も同様に132円水準から4月以来の129円台まで軟調に推移しました。

米国10年債金利は、金融政策正常化に伴う期待インフレ率の低下を背景に1.4%台後半から1.2%台にじりじりと低下しました。景気のピークアウトから来年以降の成長率の鈍化見通しが継続した格好です。

大阪金先物(中心限月)は材料不足から方向感のない相場となり、6,400円台を挟んで小動きに終始しました。

[今後の見通し]

新高値を何う米国など主要国に較べて日本株は上値が重い展開が続いています。国内でコロナ第5波による感染急拡大の影響もありますが、ワクチン接種が先行した欧米でも感染が再拡大していますので、日本株アンダーパフォームの要因はもう少し複合的と見るべきでしょう。需給面では、依然としてファーストリテイリングやソフトバンクなど日経平均株価に寄与率の高い銘柄が個別に売られやすい環境にあり、指数下落に影響を及ぼしている可能性があります。下落しやすい日経平均指数が短期筋の売りのターゲットとなり、広範囲の指数採用銘柄の売り圧迫につながっているという構図です。

ただ、ここにきて軟調相場ながらTOPIXが日経平均をアウトパフォームしてNT倍率の低下基調が鮮明化してきました。一部銘柄の突出した寄与度が低下して株価指数が徐々に正常化する動きにあると考えます。足元では海運や商社などファンダメンタルズから割安と考えられる銘柄は指数以上に堅調な値動きが見られます。

米国でも感染再拡大に対する懸念がくすぶっていますが、そうした状況によってバイデン政権が目指す景気底上げのための経済、財政政策がさらに推進されるという図式が見られます。議会上院で超党派による1兆ドル規模のインフラ投資法案が可決されたことは、バイデン大統領の求心力やマーケットに対して中長期に好影響を及ぼす動きと言えるでしょう。

当面の日本株は金融相場から業績相場の色彩を強めながら、同時に日経平均偏重からTOPIX型への移行がさらに鮮明化していく流れを想定しています。米国株のスピード調整やコロナ感染状況には注意を要するものの、今後は欧米との株価格差はピークアウトして縮小に向かう可能性が高いのではないのでしょうか。高配当銘柄を中心に素材株や金融株などの景気敏感株に注目しています。

見 通 し

◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

[7月のヘッジファンド動向]

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR社)が算出する7月のヘッジファンド・インデックスは、-0.44%と反落しました。

7月の金融市場は、新型コロナウイルスの感染者数が再び拡大傾向を示し、景気の下振れリスクを意識した動きとなりました。米国経済の拡大が鈍化すると警戒感から米10年国債の利回りは5ヶ月ぶりに1.1%台に低下し、ドルも109円台に下落しました。一方株式市場は、財政出動期待やテーパリング(量的緩和の縮小)が後倒しされるとの観測から、NYダウやS&P500指数などが史上最高値を更新しました(前頁7月の金融市場参照)。また7月後半にかけてWTI(原油先物)やビットコインの上昇など、リスクを取る動きも見られました。そのような中ヘッジファンドの各戦略は苦戦し、株式ロング・ショートのみがプラスとなりました。

【株式ロング・ショート】

主要な運用先の米国株が堅調に推移し、ファンドの成績にプラスとなりました。また、中国政府が海外市場に上場する自国企業への規制を表明したことで世界的にテクノロジー銘柄が売られましたが、これらの銘柄はショート(売り)での持ち高が高く、成績の押し上げに繋がりました。

【イベント・ドリブン】

イベントを抱えるテクノロジーセクター銘柄の乱高下が影響しました。しかし企業の再編意欲は高く、今月はビデオ会議大手のズームによるファイブナインの買収が注目を浴びました。その買収金額は1兆6000億円と大きく、ファンドにとっても大きな利益機会となりそうです。

【レラティブ・バリュー】

債券相場は、インフレ指標に反応する局面があったものの概して単調な動きで苦戦を強いられました。また、イールドカーブのフラット化（長短金利差の縮小）が進み、ロールダウン効果（償還が近づくにつれて債券価格が上がる現象）による利益も期待し辛くなってきました。

【マクロ】

世界的なコロナ感染者数の増加が投資戦略を悩ませています。経済の回復を予想し、グローバルな金利上昇に賭けたアルファダイン・アセットマネジメントは戦略が裏目にて15億ドルの損失を出しました。また中国株に賭けるファンドも大きく成績を落とし、厳しい結果となりました。

【CTA】

主要な投資先のWTI（原油先物）が短期間で上下する等、厳しい投資環境でした。また、株式市場では瞬間的に大きく下落する局面があったかと思えば、ほとんど動かない日が続くなど、トレンド・フォロー戦略も苦戦を強いられました。

【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）】

	年初来	2021年					
		7月	6月	5月	4月	3月	2月
ヘッジファンド・インデックス	3.27%	-0.44%	0.38%	0.38%	1.63%	-0.06%	1.52%
株式ロング・ショート	8.36%	0.46%	1.16%	0.85%	2.99%	0.87%	2.84%
イベント・ドリブン	1.64%	-1.71%	0.12%	-0.02%	1.56%	-0.24%	1.33%
レラティブ・バリュー	0.83%	-0.02%	0.34%	0.14%	0.46%	-0.82%	0.41%
マクロ	0.88%	-0.67%	-0.60%	0.53%	1.10%	-0.18%	1.29%
CTA	2.14%	-0.72%	-2.15%	1.11%	1.24%	0.41%	2.96%

データ出所：HFR社

高配当銘柄を保有するメリットは

世界的にコロナの感染者が増加しています。日本でも8/5には全国の新規感染者が初めて15000人を超え過去最高を記録し、社会的にも経済的にも先行きが一層不透明になっています。日経平均株価もそのような状況を反映してか、徐々に高値を切り下げながら200日移動平均の近辺でもみ合っています。

このような環境の中で比較的风险を抑えた投資を考えると、長期の保有を前提にした9月末権利落ちの高配当銘柄への投資がよいのではないかと思います。高配当銘柄への投資は、株を保有しながら高い利回りの配当金を受け取りつつ、値上がり益も狙えるというメリットがあります。

そこで今回は、

- ・ 配当権利落ちが2021年9月29日
- ・ 時価総額1000億円以上
- ・ 年間予想配当利回り4%以上

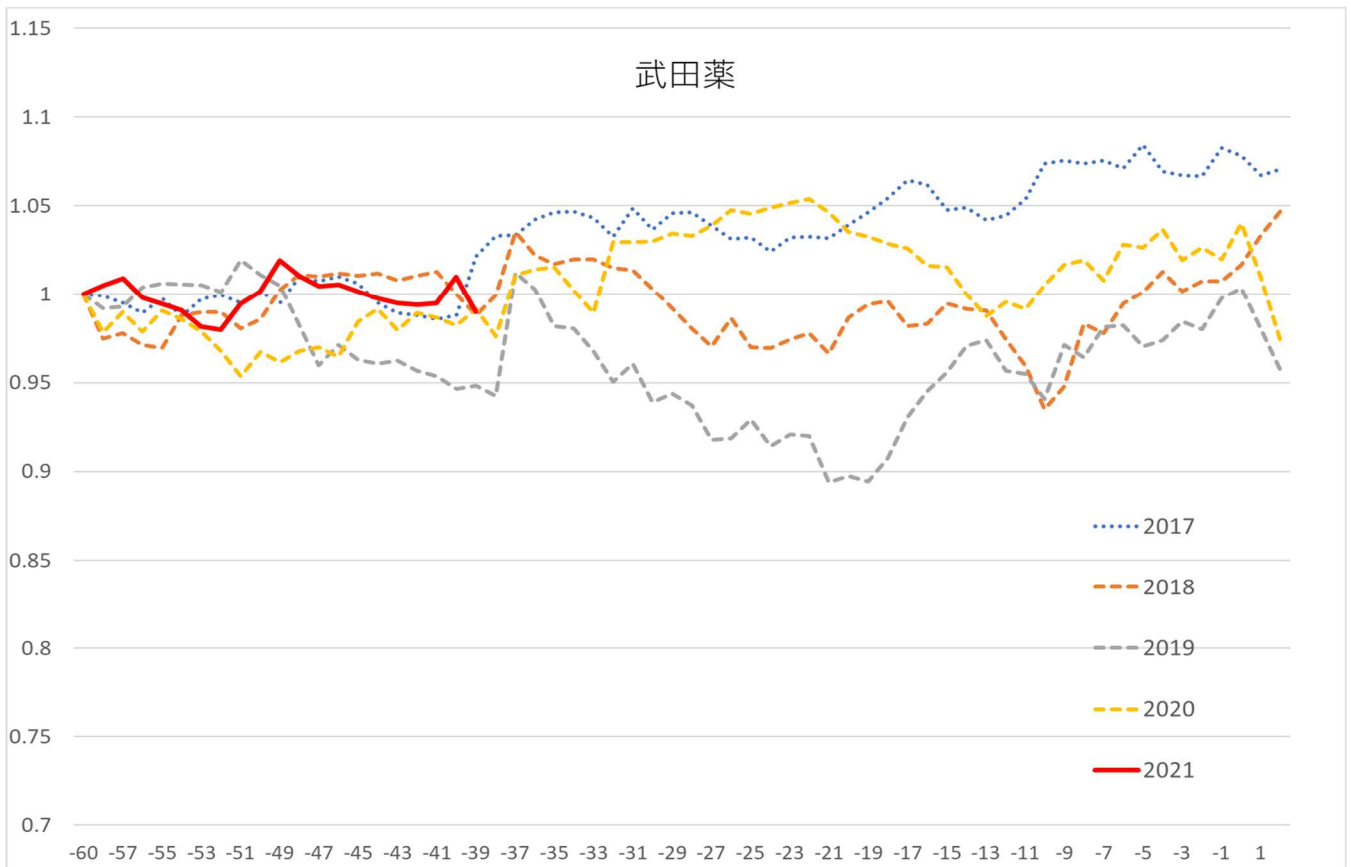
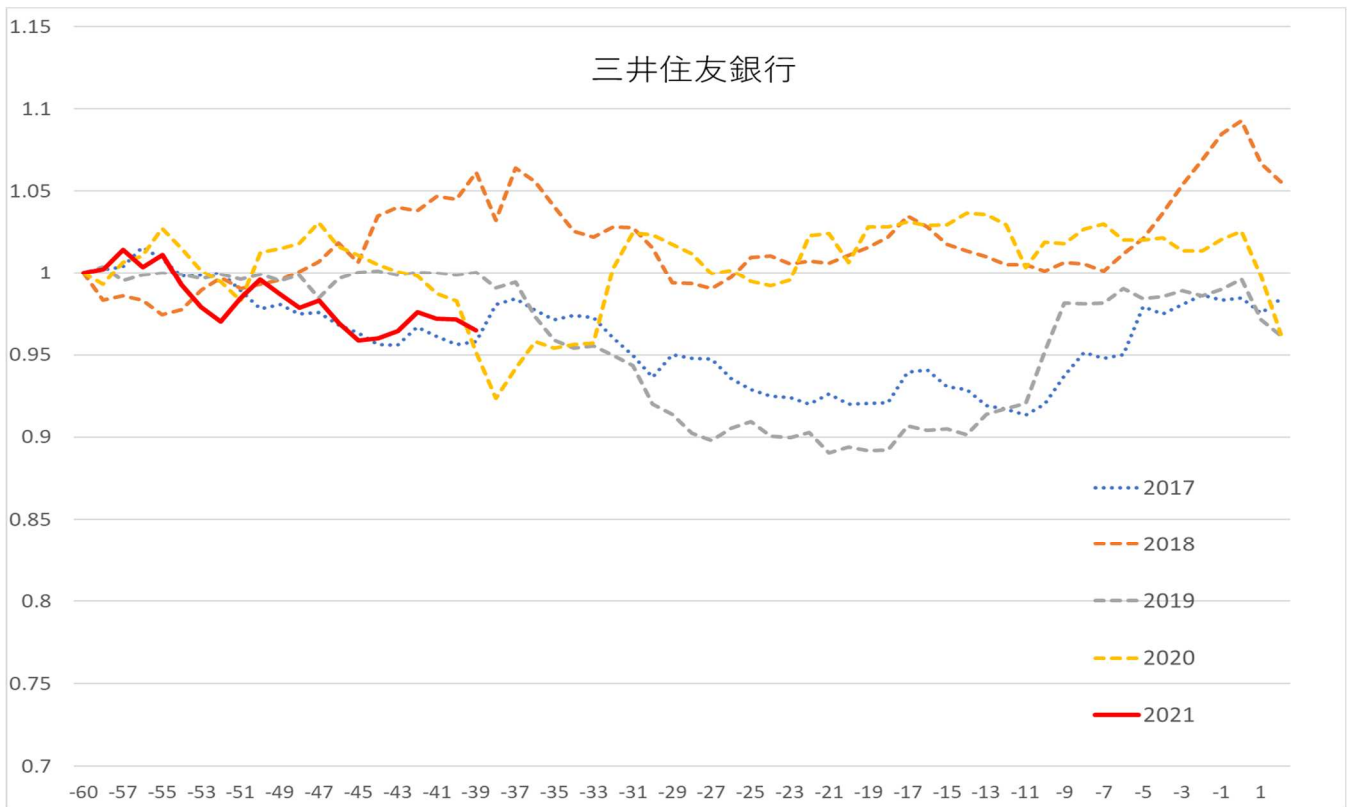
の条件で銘柄をスクリーニングし、ランキングにしました。(2021/8/6時点)

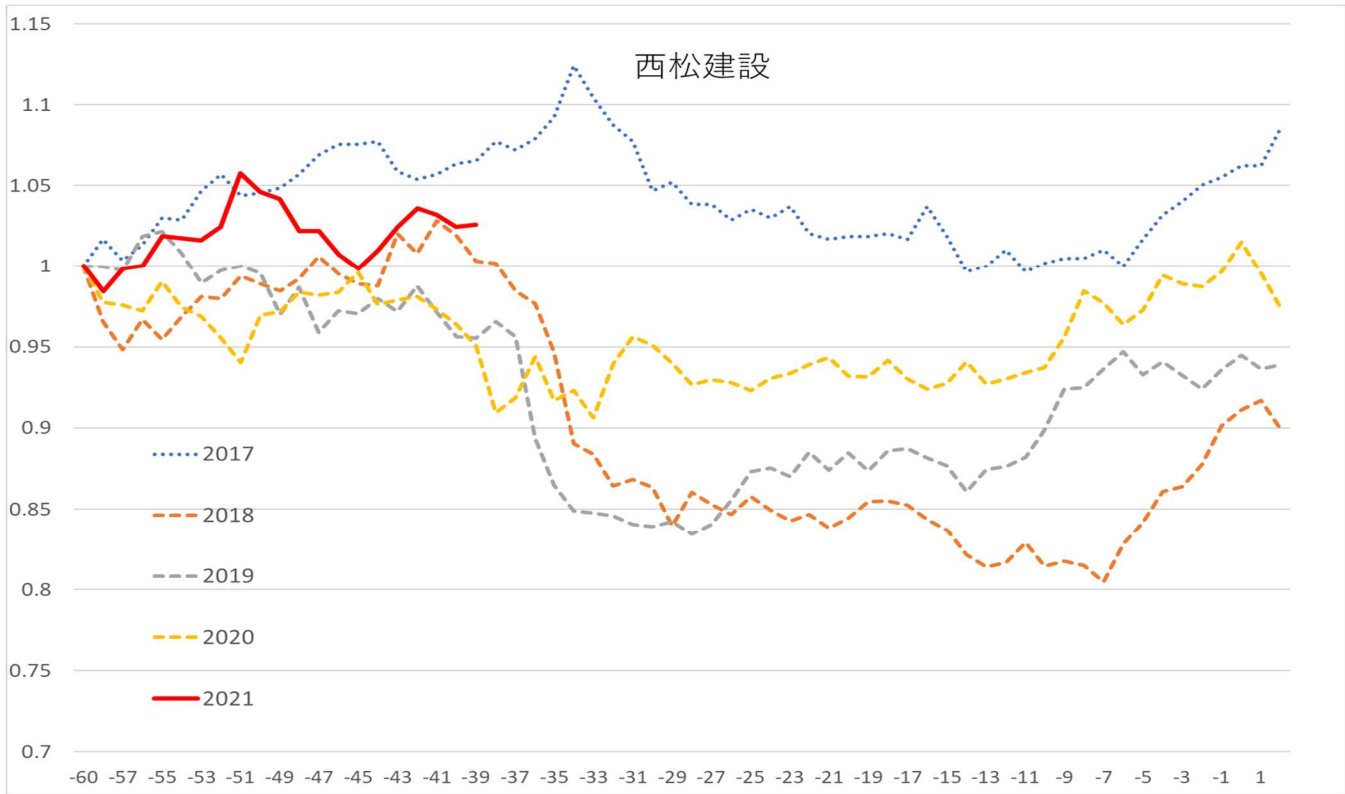
また、2017年から各銘柄の「権利落ち前60営業日前～権利落ち日」までの値動きを調べました。すると、三井住友銀行、武田薬、西松建設などはとくに権利落ち日の10営業日前あたりから底堅くなる傾向が直近4年でありました。

相場環境や過去の傾向も踏まえて、高い配当金と値上がり益の二重取りを狙ってみるのはいかがでしょうか。

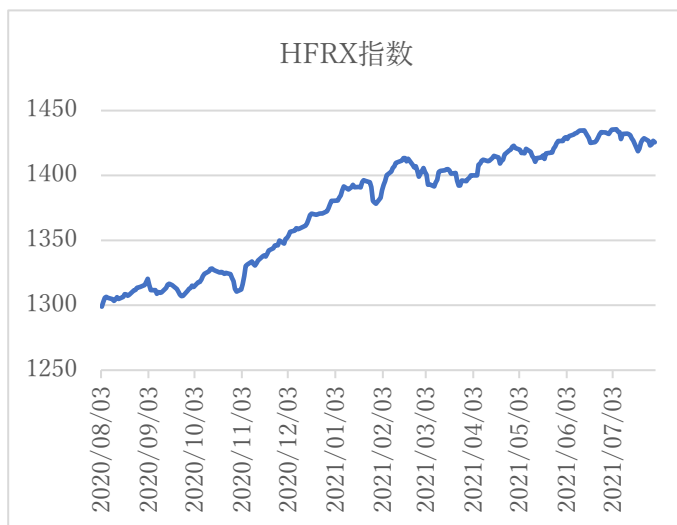
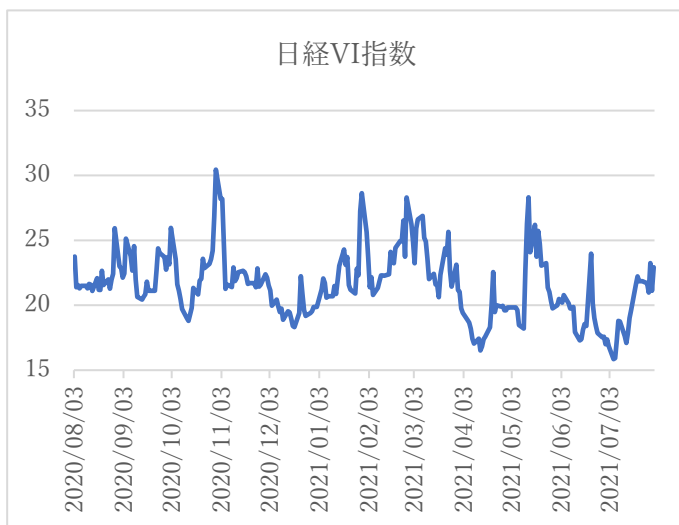
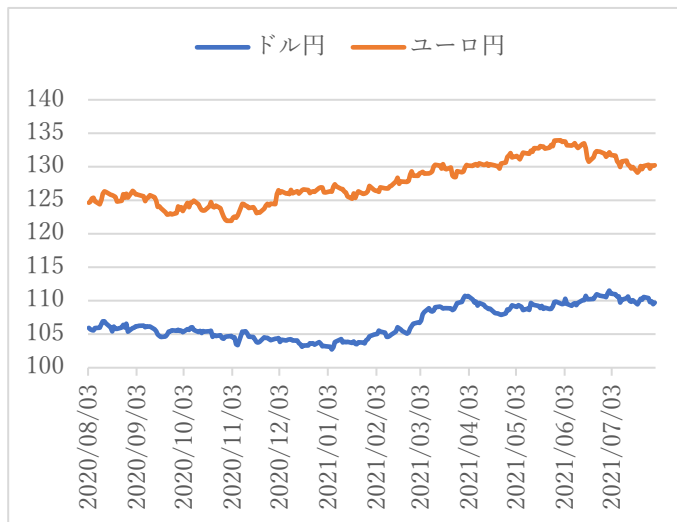
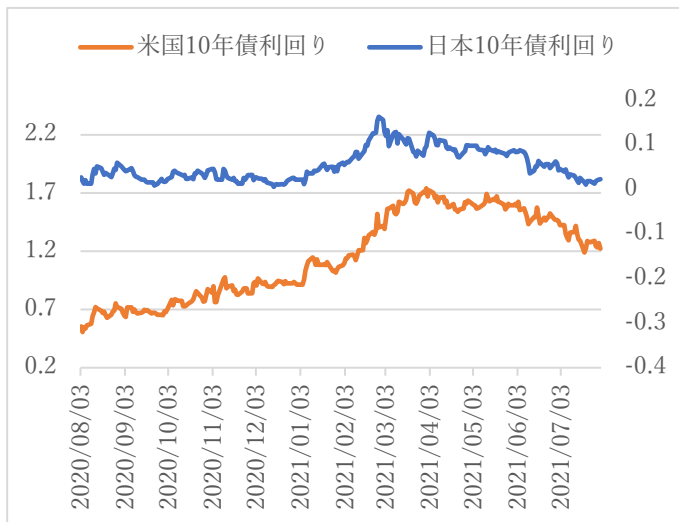
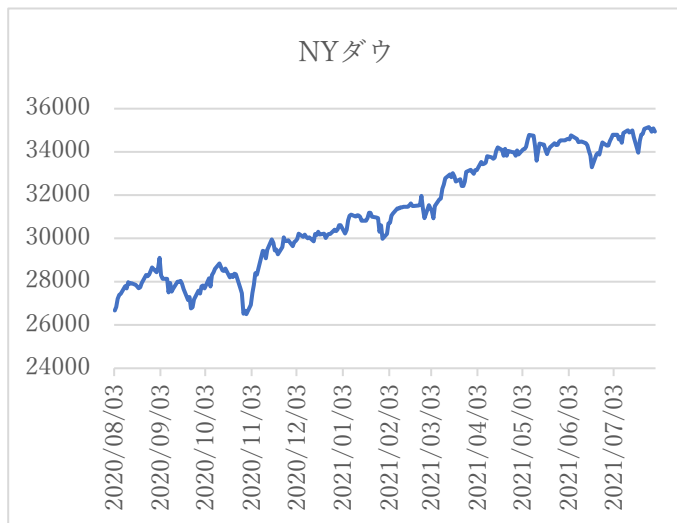
銘柄	証券コード	8/6終値	予想配当利回り	PER	PBR	配当落ち日
ソフトバンク	9434	1482.5	5.8	13.92	4.59	2021/9/29
三井住友FG	8316	3740	5.35	8.54	0.43	2021/9/29
日本郵政	6178	942	5.31	10.43	0.28	2021/9/29
コニカミノルタ	4902	560	5.36	14.55	0.51	2021/9/29
西松建設	1820	3620	5.11	13.85	0.96	2021/9/29
あおぞら銀行	8304	2606	4.91	7.8	0.62	2021/9/29
ふくおかFG	8354	1967	4.83	7.48	0.39	2021/9/29
りそなHLDG	8308	421.9	4.98	7.04	0.42	2021/9/29
中国電力	9504	1011	4.95	45.54	0.55	2021/9/29
第四北越FG	7327	2455	4.89	10.22	0.26	2021/9/29
武田薬品工業	4502	3628	4.96	22.82	1.1	2021/9/29
関西電力	9503	1073.5	4.66	13.69	0.57	2021/9/29
九州電力	9508	836	4.78	8.79	0.72	2021/9/29
みずほFG	8411	1569	4.78	7.8	0.43	2021/9/29
ENEOS HLDG	5020	467.3	4.71	10.72	0.65	2021/9/29
長谷工コーポレーション	1808	1499	4.67	8.02	1.05	2021/9/29
MS&ADインシュアランスHD	8725	3434	4.66	8.3	0.62	2021/9/29
住友商事	8053	1561.5	4.48	6.73	0.77	2021/9/29
めぶきフィナンシャルグループ	7167	242	4.55	7.01	0.28	2021/9/29
日鉄物産	9810	4865	4.52	7.13	0.61	2021/9/29

(Refinitivの8/6のデータより作成)





◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 . . . 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) . . . 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol.145
高配当銘柄を保有するメリットは . . . 野上 信彦

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

